

文化



緊急事態宣言の延長が決まり、記者会見する安倍首相＝4日午後6時2分、首相官邸

さらには、医療関係者やエッセイナル・ワーカーと呼ばれる人々やその家族への差別行為も、残念ながらいまだに続いている。当

「自粛警察」という言葉が一部に使われる。他人の行動を監視する行為をさし、営業している（勝手に思い込んだ）店舗に脅迫まがいの張り紙や電凸を行う事例もあるようだ。沖縄県下でも、感染者の匿名住所を暴いて、その行動を非難するばかりか人格攻撃をするに至っている。そうした違法もしくは不当な行為自体が許し難いことばかりだが、用語としても嫌な使われ方だ。

「自粛警察」という言葉が一部に使われる。他人の行動を監視する行為をさし、営業している（勝手に思い込んだ）店舗に脅迫まがいの張り紙や電凸を行う事例もあるようだ。沖縄県下でも、感染者の匿名住所を暴いて、その行動を非難するばかりか人格攻撃をするに至っている。そうした違法もしくは不当な行為自体が許し難いことばかりだが、用語としても嫌な使われ方だ。

自分が絶対に安全な立場にいる、あるいは正しいと信じている思い込みのもと、自分からなす少しでも考えが異なる、あるいは自分の安全を少しでも脅かすと思われる対象を、徹底的に排除するという行為が、先に挙げた「自粛警察」の特徴だ。いわば私刑（リンチ）であるわけだが、その起因するところはなかなか厄介で、今回に限った話で

自分は絶対に安全な立場にいる、あるいは正しいと信じている思い込みのもと、自分からなす少しでも考えが異なる、あるいは自分の安全を少しでも脅かすと思われる対象を、徹底的に排除するという行為が、先に挙げた「自粛警察」の特徴だ。いわば私刑（リンチ）であるわけだが、その起因するところはなかなか厄介で、今回に限った話で

山之口獮賞の募集延期

琉球新報社は本年度の第43回山之口獮賞の募集を延期します。例年4月下旬に詩集を公募していま

日程検討

念し、1978年に創設されました。奄美を含めた琉球弧の文学振興の立場から、広い意味で山之口獮の文学を受け継ぐ詩作品ないし詩句の募集を、例年4月下旬に

度の選挙委員は詩人の以倉紘平氏（丘氏賞、歴程賞、現代詩人賞）に加え、新しい選挙委員として詩人の高橋順子氏（読売文学賞、藤村記念歴程賞、三好達治賞）と詩人の市原千佳子氏（丸山豊記念現代詩賞、山之口獮賞）が本年度から加わります。

避難所に間仕切りを

建築家・坂さん 備蓄呼び掛け



坂さん

美術話題

「今、地震や台風などの災害が起つたとき、避難所が不足する。避難所を確保するために、建築家・坂さんが、備蓄を呼び掛けている。

一保護に貢献してきた。今回の感染拡大を受けて、国立国際医療研究センター研究所長の溝藤裕明さん（感染症学）に相談すると、飛沫感染の抑制にも有効と見解が示されたという。カーテンをひいて隠れるようにして、避難所を確保する。また、協定があっても材料の準備など、設置まで数日かかるため、避難所開設と同時に設置できるよう、事前の備蓄を提案。3月に0.2メートルの厚さを決めた

県神代町、名高屋市など計7自治体と協定を締結してきた。ただ、協定があっても材料の準備など、設置まで数日かかるため、避難所開設と同時に設置できるよう、事前の備蓄を提案。3月に0.2メートルの厚さを決めた

坂さんは、感染を恐れた避難所を避け、車内で過ごす被災者が増えれば、工場の扉を閉め、避難所を確保する。また、協定があっても材料の準備など、設置まで数日かかるため、避難所開設と同時に設置できるよう、事前の備蓄を提案。3月に0.2メートルの厚さを決めた

時評

〈5月〉

山田 健太

感染追跡と自粛警察

社会的弱者を攻撃

実証的報道で命守る

化されやすい状況にある。そして第3には、ずるいやつを懲らしめてやるという「義侠心」（正義感）の現れである場合も少なくないかもしれない。さらにこうした基盤には、この場に加えお上に逆らつたかという権威に頼りがちな社会風土がある。スタンプド現象と呼ぶ。スタンプド現象と呼ばれるように、いったん決まれば、全体として一気呵成に流れやすいといった国民性もある。さら

りがなく、次々とターゲットを襲って、自分より弱い立場の者を攻撃し続けることになるだろう。こうした状況は、これまでのクラスター潰しの限界をがバーするため、民間の方を借りる形で「接触追跡アプリ」の導入を予定している。感染者に一定程度一緒にいた濃厚接触者を、その人の携帯に保管されている感染者との接触「データ」を遡って割り出し、通知をするというアプリだ。今月中に実証実験が開始される

増え、感染者数等の統計データさえも示していない。そうした中で政府は、自らのクラスター潰しの限界をがバーするため、民間の方を借りる形で「接触追跡アプリ」の導入を予定している。感染者に一定程度一緒にいた濃厚接触者を、その人の携帯に保管されている感染者との接触「データ」を遡って割り出し、通知をするというアプリだ。今月中に実証実験が開始される

不安感の蔓延 しかつとした行動の直 接の要因は、社会全体に蔓延する「不安感」ではないか。残念ながらこうした感

危うい追跡アプリ ことほどの話はいわば、政府に透明性が欠如しているといふことであるが、これは同時に信頼性の低下にもつながっている。公権力が頼りにならないから、人がたまた次に差支、そして感染者も自らを自覚させられない（守っていない）、さまざまな理由で守れない人と、次々と対象を襲う。しかし、それから3カ月以上経過しても、いまだにPCR検査の数は一向に

個人を特定できる情報は取れないとか、政府が直接データ収集・保管を行わないとか、本人が了解した場合は合意したとか、さまざまの歯止めが用意されている。その結果、法律家からは個人情報保護法の枠内だし、国際基準のGDPR（一般データ保護規則）にも反していないのと同様などのお墨付きももらった形だ。しかし問題は、こうした法律組みの問題というより、これまでのコロナ禍に対する政府の情報の扱いが、あまりにいい加減で不透明な点に対する、決定的な不安と不信感が拭えない中で、あえて強行するものが許されるかという点である。法律解釈上正しいの

人情報の収集、そして個人情報保護法に違反している中で、さまざまな手段を「公式」に認めるとは、明らかに次のステップに向かうことを意味する。開かれた政府の実現は、この間、平時においても繰り返して言われてきたことであるが、緊急事態にこそ民主主義を機能させる必要がある。緊急事態だから自由を制限することも、権力分立を制限することも得ないという議論は、まったく逆である。

こうした中で、メディアは「ボクシング・シャドウ」を心掛けてほしい。次のステップを考えながら、内向きになりがちな市民一人ひとりの背中を押す報道だ。それが他者への攻撃を抑えることにもつながることだろう。これまでは、感染者数や経路といった「行政広報」がコロナ報道の中心になりがた。専門家がオーバーシフト（医療関係）といふ、それを伝えてきた。福島原発事故の教訓からすると、科学を疑うこと、政治闘争のうらみを社会を突破することも求められている。それもまた積極的で実証的（ボクシング・シャドウ）な報道の実践だ。

（専修大学教授・言語法） (第2土曜掲載)

琉球

そびしそび

すけり灯りの消え 遅くはやく走の接 誰もいない気配の響 誰もいないとを

はしるはしるはしる

はしる手紙が はしる 震えるものに手足は 照は照を照かに消え なにで 夜道を 照

はしるはしるはしる

透にあたまもきき生 ころは 夜道を 照

おおいしる

消えてしまった言葉 じつからか触れた

もろそにはいなら ちろ

はしる たから

しるはしるはしる

じつまたも

いつか はしる

おなか・しるはしる ね。 「五河・B a なるおじい。

◇第一、

坂さんは、感染を恐れた避難所を避け、車内で過ごす被災者が増えれば、工場の扉を閉め、避難所を確保する。また、協定があっても材料の準備など、設置まで数日かかるため、避難所開設と同時に設置できるよう、事前の備蓄を提案。3月に0.2メートルの厚さを決めた